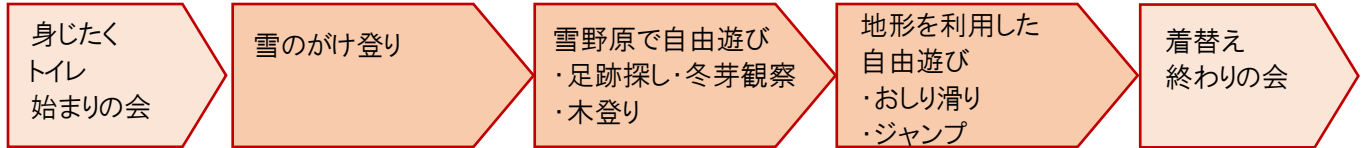


深雪探険ってこんな活動

フィールドは、圧雪していない降り積もった雪野原です。降雪の状況によっては大人の膝上まで埋まるような新雪の中を、道具を使わずに体ひとつで飛び込んでいきます。

無色の雪は想像力を掻き立て、子どもたちはなんにでもなることができ、遊びが展開していきます。

活動モデルプラン



予想される子どもの姿・こんな支援をします

深雪の中を進むことは、立派な探険です。「探険隊出発！」など声掛けをしてスタートすると、期待や意欲が高まります。どんどん活動場面が変わるので、その場その場を十分に楽しめるよう支援します。

がけのぼり	雪の感触	森での発見	自由遊び
<p>圧雪されていない5mほどの斜面を登ります。ひじやひざ、おなかも使って進んだり、仲間に手を貸したりして進みます。 非圧雪の斜面は容易に上ることができず、斜面の途中で滑り落ちてしまうことも多いです。</p>	<p>普段は手や足だけで感じている雪の感触や温度を、全身で感じるすることができます。</p>	<p>冬の森では、グリーンシーズンに比べて生き物の存在を感じ取れます。雪の上の足跡や食痕、フンを見つけたり、植物の冬芽を間近に目にしたりすることができます。自分の経験から意見を出す子どもの姿も見られます。</p>	<p>U字谷などの斜面では、ゴロゴロ転がったり、おしりで滑ったり、遊び方に制限はありません。おしりで滑るときは、仲間と連結したり腹ばいになってみたりして、いろいろ試してみます。木登りも、普段は手の届かなかった枝に登ることができます。</p>
  <p>わからないようにかかとを支えています</p>	  <p>泳ぐように進んでいます</p>	  <p>ツリーホールでは十分な注意が必要です</p>	 

安全に注意しながら、子ども自身の頑張りを見守ります。手を貸すことは極力せず、工夫して登っている姿を紹介したり、仲間同士のかかわりを促したりして、子ども自身が自信を持てるようにかかわっていきます。

歩き進むだけでなく、時には横になって転がったり、泳いでみたり、雪独特の柔らかさや冷たさを全身で感じ、その後の活動への期待感が高まるように支援者自身が先に立って示すようにします。

足跡からどんな動物がどのように通ったのかを話し合ったり、食痕やフンから動物の暮らし方を想像したりして、子どもたちの感動や驚きの声を大切にします。探求心を共有することで、自然に対する興味関心を高めます。

安全に注意しながら、子どもの主体的な遊びを見守ります。支援者も一緒に遊ぶことで、安全確認をしながら子どもたちに安心感を持たせます。

参加者の服装

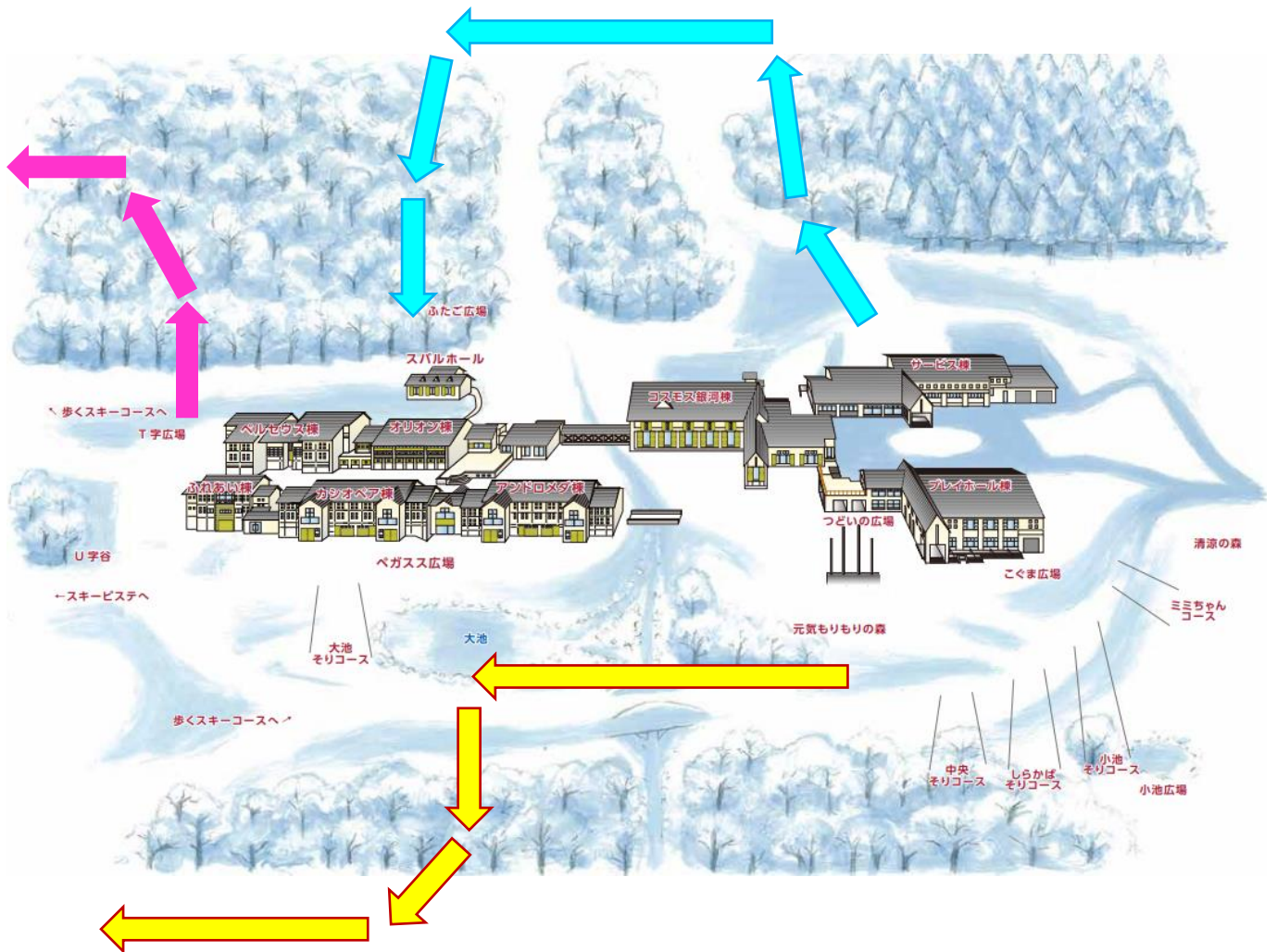
スキーウェア上下
長ぐつ
足カバー
手袋
耳の隠れる帽子
※水筒は持たない



施設支援者の持ち物(一例)

トレー(自然物を共有するときに便利)
剪定ばさみ
ルーペ

活動マップ



① T字広場 → ふたご広場南側 → U字谷

② 職員駐車場裏 → MA 広場 → キャンプセンター → 第2ナラの木広場 → ふたご広場

③ 元気もりもりの森 → 大池前東側 → OLポイントNo.12方向 → ありの巣ファイヤー場

安全管理 (セーフティトークで、事前に周知しましょう)

【跳ね枝に注意!】

枝が雪に埋もれていて跳ね上がってきたり、前の人がよけた枝が跳ね返ってきたりします。

【落雪に注意!】

気温が上がってくると、頭上の枝の雪が解けて落ちることがあります。

【足元に注意!】

茂った藪の上に雪が被っていて踏み抜いてしまったり、ツリーホール(樹木の周りに空いた穴)へ滑り落ちてしまったりするがあります。